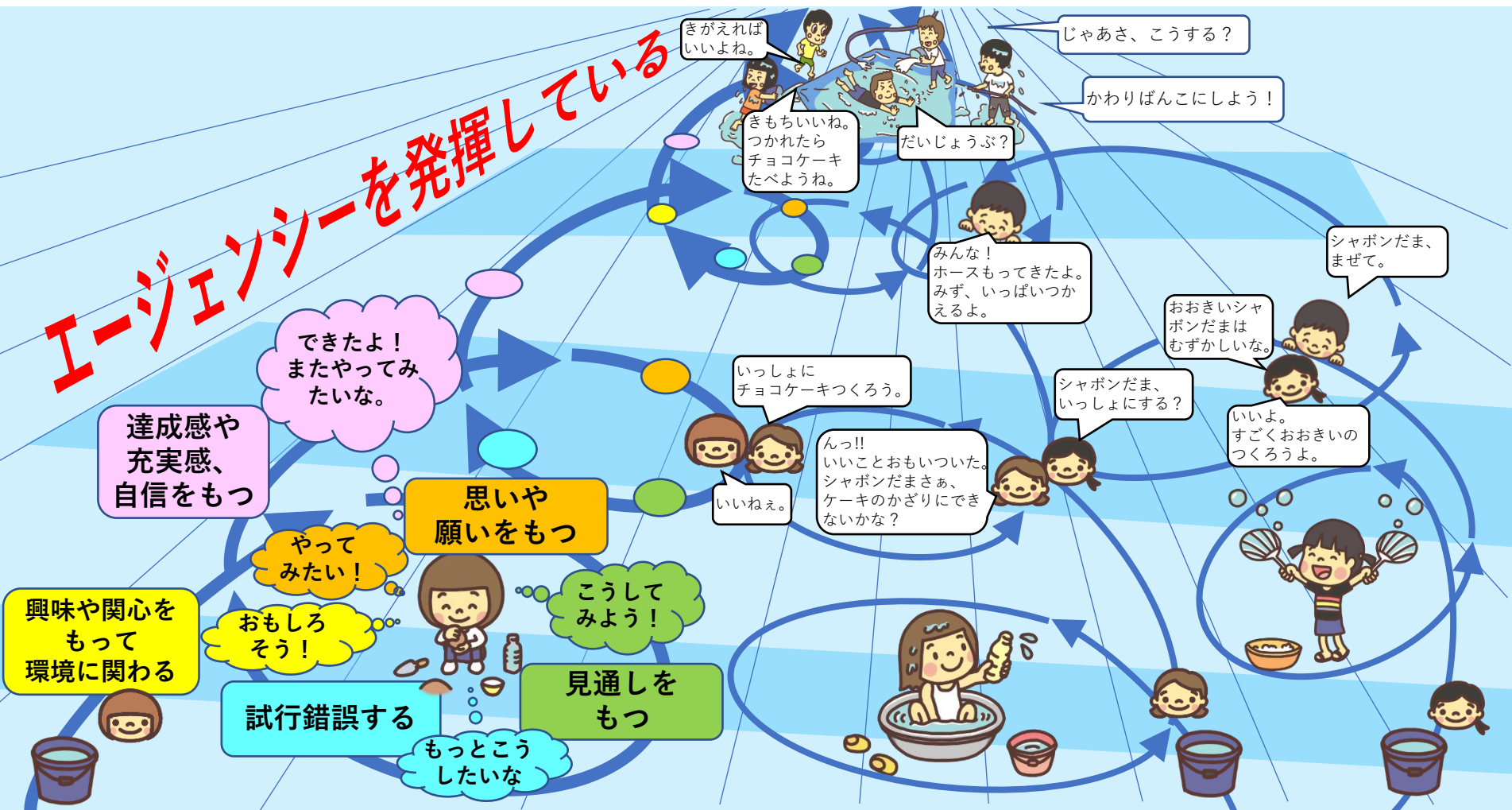


幼児がエージェンシーを発揮して自ら発達に必要なものを獲得しようとする姿

この図は、身近な環境との関わりの中で、幼児がエージェンシーを発揮して自ら発達に必要なものを獲得しようとする姿について、具体例を挙げて表したものです。この姿は、幼児が自ら周囲の環境に働き掛け、その環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤を繰り返す中で現れてきます。その際、教師の関わりや援助、状況づくり等の環境の構成が大切となります。



- この過程は、いつも順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わったり、同時に行われたりする場合があります。
- 幼児期は、はじめは自分の興味・関心に応じて個々に遊ぶ姿が見られますが、発達に応じて、友達との関わりの中で新たな遊びが生み出されるなど、環境への関わり方を深めていく姿が見られるようになります。
- このような自発的な活動としての遊びや幼児期にふさわしい生活を積み重ねることにより、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）」が育まれていきます。